

都道府県別賞一等

まさかの時の備え

兵庫県 灘中学校 三学年

近藤 宏紀

生命保険、このような言葉をコマーシャルでよく耳にするが、その言葉を聞いてもまだ自分は中学生で若いので関係のない話だと思っていた。しかし、それは身近なところにあったのだ。僕は運動部に所属していることもあり、よくケガをして病院に行くことが多い。その度にかかる治療費は五百円だ。以前は、なぜ、そんなに安くて済むのかと思っていたのだが、親に聞いてみるとそれは子供の医療費助成という制度があるおかげだということを知った。

健康保険や生命保険について親に聞いてみると、兄は小学生の時、鼻を骨折して入院したことがあったが、これもまた五百円だったそう。もちろん子供の医療費助成制度のおかげだった。考えてみれば当然のことなのかもしれないが、「風邪や軽いケガだけでなく入院しても五百円で済むのか」と、驚いた。僕の自治体では子供の医療費は五百円だそう。大人の場合だと、これは自治体に関係なく年齢別にいろいろあるが基本三割の負担で済むそう。やはり病気やケガなどはいつ起こるか分からないので、健康保険みたいなものがあるといざという時の負担が少なくて済むのでありがたいと思った。

そして、同じようなことが生命保険にもいえると思う。親に生命保険に入っているかどうか聞くと父親は入っていて、母親は入っていないと言っていた。なぜ入っていないのかと母親に聞いてみると、

「専業主婦でお金を稼いでいないから、極端にいうとお母さんが死んでも家族がお金に困らないから。」

と、答えた。これを聞いて、生命保険はその人がいなくなると家族が困る人が入るものだと思った。実際父親に聞いてみると、

「将来結婚して家族ができた時、もしものことがあっても大丈夫なように。」と、結婚前から生命保険に入っていたらしい。しかし、専業主婦だからといって生命保険に入るメリットがないわけではないと思う。これまで生命保険といえど亡くなった時に保険金が支払われる死亡保険のことをイメージしていた。だが、実際に調べてみると死亡保険の他に病気やケガの時に給付金が支払われる医療保険もあると分かった。これを知った時「健康保険と医療保険は両方とも病気やケガをした時に支払われるから同じようなものじゃないか。なら、医療保険に入る意味なんてない。」と、思った。しかし、先に述べたように健康保険は七割負担してくれるが、残りの三割は自分で負担しなくてはいけない。もし、ここで医療

第62回中学生作文コンクール

保険に入っていたら、さらに負担を減らすことができるのだ。「健康保険で七割負担してくれるならそれで良いじゃないか」と、思うかもしれないが病気やケガの時は自分が動けないので、やはり少しでも負担を減らし家族にかける迷惑が小さくて済むほうが良いだろう。医療保険には健康な時に掛け金を支払っておくことで、病気やケガなどの不測の事態に備えることができるというメリットがある。これまで生命保険のことを良いことしかないもののように書いてきたがデメリットもある。それは、支払った掛け金がおりてくる給付金より多くなり元が取れない可能性があるということだ。

僕は、このような「生命保険に入っても元が取れないだろうけど、万が一大きな病気にかかったらどうしよう」という究極の二択を迫る、人間の弱みにつけこんだような「掛け金制度」(勝手にこう呼んでいるだけ)が嫌いだった。しかし、そのようなことを言って生命保険に加入せずにはつまらない。生命保険に入っておくと、このような不安を解消しながら生きていくのはつまらない。生命保険に入っておくと、このような不安を解消し安心して暮らすことができるのである。つまり、生命保険は健康な内に掛け金を支払い将来に備えるというように、日々の暮らしの安心感を得ることができるのである。